

令和5年度第2回太白区区民協働まちづくり事業評価委員会 議事録

日 時：令和6年3月2日（土）9時～15時30分

場 所：太白区役所4階第1会議室及び第2会議室

出席委員：岩間友希委員長、石内鉄平委員、佐藤真美子委員、鎌田隼委員

事務局：利まちづくり推進部長、片桐まちづくり推進課長、佐藤地域活動係長、

竹内地域活動係主事、細谷地域活動係主事、岩城地域活動係主事

会議内容：次のとおり

1 開会

委員長から開会のあいさつ。

2 第1回議事 【非公開】

議事録署名委員を指名した。

- (1) 評価基準・採点方法について説明
- (2) 助成予定額について説明
- (3) 申込事業の概要説明
- (4) 留意点の説明

3 まちづくり活動助成事業に係る事業計画説明会 【公開】

- (1) 開会
- (2) 事業計画の説明及び質疑応答

①「八木山地区まちづくり研究会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名：八木山駅前商店会 AR プロムナード

事業概要：令和5年度の「八木山駅前 AR 商店会」事業で生じた課題を解決するため、令和6年度は AR を使用した販わいだけでなく、商店会自体の販わいを目指す。八木山駅前から八木山生協に至る通りに QR コードを張り付けたベンチを配置し、歩きながら AR を楽しめるプロムナードを作り、地域の回遊性を高めていきたい。既にベンチは数か所に設置しており、活用する住民が出てきている。普段とイベント時で違う内容の AR が楽しめるようにすることで、より慣れ親しんでもらうことが出来る。

ベンチなどの設置によるハード面だけでなく、AR を通じて店主と繋がれるソフト面を組み合わせ、ウォーカブルシティを実現できる事業としていきたい。

質疑応答：[委員] AR の情報の更新はどれくらいのペースで考えているか。

[説明者] 月に1度程度の更新を考えている他、イベント時の変更を考えている。

[委員] 令和5年度事業での課題を解決するため、令和6年度に実施する際にはどのような施策を考えているか。

[説明者] 令和5年度は、ハロウィンイベントの時にお店にお化けを浮かび上がらせることでカウント数は伸びたが、浮かびあがったARを見るだけで終わってしまった。令和6年度は、ARを使ってお店の人とコミュニケーションを取れるようにすることで、見るだけで終わらないような内容の事業にしていきたい。

[委員] 事業の継続性を考えると、地域の若者に関わって貰う必要があると感じているが、若者との関わり方を検討しているか。

[説明者] 若者と地域が関わるきっかけにARを活用したい。令和5年度は、中学生を中心にARの作り方を教え、実践する中で技術を覚えて貰えた。令和6年度は、若者が作ったARについて、展示先のお店の人とコミュニケーションを取りながらより良いARの展示物にしていけるようにしたい。

[委員] 令和6年度の事業を実施した後、令和7年度の事業はどのようなことをイメージしているか？

[説明者] 事業実施前だと検証が出来ないため、その先の事業計画の立案は難しい。ただ、ARの更新やベンチをきれいに維持する中で、地域の人にこの事業への関わりを増やして欲しい。そして自分たちの作ったAR、道、街を大事にするようにして欲しい、という大まかなイメージはある。

[委員] 収支予算書に記載されている報告書は、32ページで500部作成するとある。かなりボリュームのある内容だが、どのように活用する計画か。

[説明者] 過去に音楽の事業を行った際、許認可の方法や、運営方法について、問い合わせが様々な団体からあった。ARを活用した取り組みをそれぞれの地域で実施して貰えるように、報告書を作成しノウハウを広めていきたい。

②「さかいの地区創生会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名：秋保・さかいの村のふれあい体験交流事業

～里山の体験イベントを通じた交流事業～

事業概要：さかいの産直市を中心に、体験イベントを実施していく他、令和5年度から実施した宮城大生とのコラボ企画を継続する。今年度のコラボ企画の内容は、地元食材を使った加工品のワークショップ、外来種のザリガニやいのししの活用を検討している。また広報媒体としてInstagramをより活用していきたい。農業などを通じて秋保・境野エリアに興味を持つ人を増やし、将来的に後継者として移住して貰うことに

期待している。

質疑応答：[委員] 焼き芋機の購入について教えて欲しい。収支予算書に記載はあるが、事業計画に説明がなかった。

[説明者] 焼き芋機をレンタルする場合、費用は17,000円/日と高額であるため、売上で賄うのが難しい。中古の焼き芋機を購入することで、今後の収入元とし、事業の採算性向上に役立てたい。

[委員] 広報費について、チラシの部数と配布先について教えて欲しい。

[説明者] 今年はチラシの部数や配布場所を昨年度より絞る予定。以前はチラシを作成し、多く配布することを優先していた。今はホームページとInstagramを中心に周知活動を行っており、効果が上がってきている。

[委員] 宮城大学とコラボする中で、後継者の候補に繋がってきているか。

[説明者] 後継者候補はまだ具体的に出てきていない。ただし、新しい移住者と繋がるための伝手は出来始めており、期待できる傾向となっている。

[委員] 昨年度からコラボしている宮城大学生の人は何年生が多いか？

[説明者] 3年生が多く、コミュニティプランナー研修の一環として参加している。

[委員] コミュニティプランナーのプログラムは毎年変わるので、継続性を考えた仕組みを作って欲しい。

[説明者] 宮城大学に能動的に働きかけを行い、仕組みを作れるようにしていきたい。

[委員] 資料40ページに課題として記載されている、整備作業従事者の作業日当について、考えていることがあれば教えて欲しい。

[説明者] 市の規定により、飲食費などは助成対象外となってしまう。夏場の作業に関して日当の支払いを検討しているが、会計上余裕がない。令和6年度末の決算次第で、令和7年度以降に日当を支払うようにしていきたい。

③「桜会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名：「さくらカフェ」による地域活性化事業

事業概要：緑ヶ丘地域は高齢化率が80%程度あり、東日本大震災やコロナの影響で人と人との交流が減少している。そのこともあり、高齢者の外出する機会が減少し、筋力の低下により転倒骨折をする方が増加している。桜会は最後まで住み慣れた地域で過ごしたいという高齢者の要望に応えるため活動している。筋力トレーニングや、手先の運動の他、音楽を聴くなど五感に刺激を与えることで、心身を健康するための活動を行っている。

現在は約30名の参加があり、参加者同士で安否を気遣うなど、交流が深まってきて

いる。参加者同士が支え合い寄り添うことで、誰かのために役立つという充実感を感じて貰っている。また地域住民であるスタッフも参加者を支えているという達成感が持てている。他者交流を通じて、より良い地域づくりへと繋げていけると考えている。

質疑応答：[委員] 令和5年度の課題の対策として、一人で参加出来ない方の補助のため地域の方に協力頂く計画になっているが、どんな準備を行っているか。

[説明者] 現在町内会に協力を依頼している他、常時使える車いすを確保している。

[委員] 一人で会場に来られない方への周知については、どのように周知していくのか。

[説明者] 概ね対象となる方は決まっているので、さらなる周知は現段階では考えていない。

[委員] 収支予算書には会場使用料が12回分と記載されているが、サロン開催分という意味か。また申請書にミーティングを開催する際の会場が記載されていないが、どのように運営する予定か。

[説明者] ミーティングは説明者の自宅で行う予定でいる。サロンの会場使用料は1か月1,000円としている。

[委員] 高齢者の筋力を高めるため、どのような運動を行う計画か。

[説明者] 楽しく体を動かしながら、音楽に合わせて体操を行う。従来は10分間の体操であったが、令和6年度から15分に増やす予定。様々な身体状況の方がいるため、15分の体操で様子を見ながら時間の調整を行いたい。

[委員] 収支予算書の中に返金分と記載があるが、5年度の計画時と大きく変更が生じた分について、説明をお願いしたい。

[説明者] 助成金をいつまで使えるのかを考え、自己資金の比率を増やしていきたいと感じている。そのため、一回の参加者負担金を500円にすることを考えている。又、別途協賛をいただいた分もあるため、自己資金に繰り入れようと検討している。

[委員] プログラムは参加者の評価を生かした工夫をしているか。

[説明者] 参加者が自分でやってみたいという意志が、意欲の活性化につながる。開催前に参加して欲しいと声掛けを行っている。

④「ながまち会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名：「ぐるぐるながまち」事業

事業概要：ながまち会は、NPO法人スロコミとまごころサポートが中心となり、長町に交流を生み出す仲間づくりの場として立ち上げた。アイデアを発表し、意見を言い合いながら、まちづくりのきっかけを作る場としてながまち会を毎週第三木曜日に開催してい

る。

昨年から実施しているごみ拾いは、6月は参加者8名、9月は10名と参加人数を増加することが出来た。ごみを拾いながら街を歩くことで、街を再発見することが出来る。ごみ拾いをしながら、長町を知って貰い、長町に行きたくなる、長町に住みたくなることを目指す。賑わいをつくる手段として、ごみ拾いの参加者を増やしたい。

また、長町に行きたくなるイベントの開催を考えている。DIYで動く屋台（移動式の屋台）を作るイベントを行い、その後動く屋台を活用して地域やイベントを盛り上げたい。またARを使って商店街に来てもらえるようにしたい。イベントを通じて長町を歩くきっかけをつくり、笑顔があふれる街にしていきたい。

質疑応答：[委員] 収支予算書の収入の部に自己資金48,000円とあるが、同額が支出として会議食事代に計上されている。自己資金をこの食事代に使っているという認識で良いか。

[説明者] その認識で問題無い。

[委員] イベント費用の中に記載されている、謝礼金を5名の方に支払う点について、根拠としてどのような運営を考えているのか？

[説明者] イベント2回を予定している中で、街を歩く際の安全性を高めるための人員や、ARに特化した人が必要。ながまち会のメンバーだけでは賄いきれない分に関して、約5名いれば運営できると判断した。

[委員] ガチャ費用7回、チラシ作成費用7回とあるが、12か月に対して7回としている理由はあるか。

[説明者] 負担の大きい真夏と真冬を避けて実施するため、7回の実施とした。

[委員] 広報費でSNSの運営依頼とあるが、年間6万円の根拠はあるか。

[説明者] 今までSNSを使ったことが無いため、外部への委託を検討している。見積りを依頼したところ、6万円と回答があったことを根拠としている。

[委員] 動く屋台について、具体的に完成後の使い方、管理方法などを教えて欲しい。

[説明者] 具体的な使い方については検討中。まごころサポートは長町3丁目にあり、敷地内は動く屋台の置き場として確保できる。店先や駐車場などで使用許可があれば、ガチャと一緒に設置を考えている。毎月第三土曜日に長町エリアのどこかへ出動したい。

[委員] ビブスは今年だけでなく、今後も使っていく予定か。

[説明者] 今後も使うためビブスのデザイン費も含めて助成金を使っていきたい。

[委員] イベント開催にあたり、チラシの枚数や配布方法、SNSの使い方、またイベント自体の参加目標人数など、数値目標はあるのか。

[説明者] 今年度の実績で、長町と長町南、郡山で約 12,000 部配布していた。その際の費用が約 7 万円であった。今回は郡山エリアを除外してチラシを配布しようと考えている。SNS は地域の人に認知され、信用されてから活用する予定。チラシを配布することが地域の人の信用に繋がると考えている。イベントエリアとして、長町駅から長町 1 丁目までの旧 4 号線沿いのエリアで考えている。

[委員] ガチャの費用の根拠を教えてください。

[説明者] ガチャの費用は 1 回 300 円×10 名を 7 回実施で 21,000 円。

[委員] 事業計画書の 70 ページに掲載のある商店街の割引券について、何店舗ぐらいの協力を得られているのか。

[説明者] 現時点で 7、8 店舗ぐらいから協力が得られている。ガチャを作成している地域起こし協力隊員も協力店を増やそうとしている。

[委員] 協力店を増やすために工夫していることはあるか。

[説明者] 令和 6 年度は、毎月第三土曜日に長町周辺でイベントを継続実施することで、広く周知をしたい。イベントを継続実施することで、商店街がこの事業に協力するメリットがあると伝えていきたい。

[委員] ごみ拾いとイベントの参加目標人数はあるか。

[説明者] ごみ拾いは今まで最大で 10 名であったため、10 名以上を目指したい。イベントは八木山で 2,000 名集まったと聞いており、同数ぐらいを目標に集めていきたい。

[委員] 3 年間助成金を使って活動し、最終的に目指すところを教えてください。

[説明者] 1 年目はこの事業を行っているということを広く周知したい。そのために動く屋台などを作り目立っていきたい。3 年目までには、毎月第 3 土曜に長町のお店で独自の取り組みを行っている状態にしていきたい。4 年目以降は、さらにその取り組みが広がるようにしていきたい。仙台市役所が長町に賑わいを起こす取り組みをしている中で、民間団体が独自に取り組む意義は大きいと考えている。

[委員] 長町で AR をやるにあたり、規模や年齢層が八木山とは違うため、どこを目指すのか。

[説明者] ゴミ拾いが楽しくなるきっかけの一つとして AR を活用したい。八木山からはノウハウを学びたい。散策しながら長町の歴史を知れるようなイメージをしている。昔の長町の写真を使うなど、これから AR のことを学んでいきたい。

⑤ 「一般社団法人ながまちマチキチ」による事業計画説明及び質疑応答

事業名 : たっここ市—蛸薬師を舞台とした地域交流の活性化—

事業概要 : ながまちマチキチは長町のまちづくりを行っている団体。市民大学の長町みんなの

ポケット大学を通じてまちづくりのプレイヤーを育てたり、商店街の事務局を務めていることもあり、長町でビアガーデンを行ったり、杜の広場公園で仙台 89ERS の試合に併せたあすとフェスの運営を行っている。また、ながまちマチキチユースチームという内部団体で、トレジャーウォークという謎解き街歩きなども行っている。

この事業の目的として、地域の子供とその親が日常的に交流する街のオープンスペースづくりを目指す。地域の課題は、地域住民同士の交流不足と認識している。子供が遊ぶ場所として、寺社の境内は管理者がいる点が公園と比べてメリットがあると感じている。期待される効果は、道路側をフリーマーケットゾーン、奥を子供の昔遊びゾーンとし、様々な交流が生まれるようにしている。イベントを継続的に開催することで、地域の方同士の顔が見えるようになり、地域コミュニティの活性化に繋がると考えている。

たっここ市の一つ目のコンテンツはフリーマーケット。地域資源の循環や地域のごみ削減を目指す。出店料を 1,000 円とするが、妥当性を実施しながら判断したい。

二つ目はハンドメイド作品販売。別団体であるママンココンの協力を得て実施する予定。地域の母親の交流を目指す。

三つ目は昔遊び。境内は昔遊びと親和性が高い。フリーマーケットだけだと子供たちが楽しくないため、子供たちからたっここ市に行きたいと思わせるための仕掛けとして行う。市開催時に地域の人に昔遊びを教えてもらい、地域の子どもたちの顔が分かるような関係を目指す。

アピールポイントは、関係者が多いため来場者のすそ野が広い点。また密な地域コミュニティを醸成する仕掛けづくりをしている点。

質疑応答：[委員] どれくらいの人数が参加される想定か。

[説明者] フリーマーケットの出店者 10 組で、200～300 名の来場を見込む。直近のフリーマーケット実施時に同様の来場があった。

[委員] 昔遊びの道具を集める手段はあるか。

[説明者] 地域の方に声を掛けており、持っていない場合は予算の中で購入する。

[委員] 毎年経費が掛かるものなどあると思うが、どのようにステップアップしていく考えか。

[説明者] 継続性を検討している。フリーマーケットを入れたのは継続性を意識したため。出店料などのように収益面を考え事業を継続性していきたい。

[委員] どのような方法で境内に子供の声が響いているのかを検証するのか、イメージを教えて欲しい。

[説明者] 定性的な振り返りについて、1 年目は想定出来ていない。3 年後、放課後の時間に子供が常駐しているかどうかを確認したい。蛸薬師と連携を取りたい。1

年目は4回の開催だけとなるため、文化として根付くにはまだ早いと考えている。

[委員] 収支予算書の中で、ボランティア謝礼はどのような用途になるのか。

[説明者] 運営補助として、市民大学のメンバーに入ってもらおうことを考えている。長町でのイベントを経験することで、まちづくりのプレイヤーとして今後役に立っていきたい。

[委員] 印刷費 5,000 円とあるが、チラシの数量や配布方法を教えて欲しい。

[説明者] 同金額で A4 カラーのチラシを 1,000 部作成できる。初回は 1,000 部作成し、その後は様子を見ながら適正な部数を探る。お店や会場や、市民センターなどで配布する予定。

[委員] 様々な団体が集ることのすそ野の広さをアピールポイントとしているが、各団体との事前打ち合わせスケジュールをどのように考えているか。

[説明者] 他の団体との事前打ち合わせについての段取りは決めていない。様々な団体全員が集って打ち合わせをすることは考えておらず、ながまちマチキチが事務局として各団体と打ち合わせすることで、対応できると考えている。1回目が終わり、各団体の連携に問題があったと判断した場合は、団体全員が集まった打ち合わせを検討したい。

[委員] 予算で市の助成金 500,000 円に対し、自己資金が 50,000 円必要になる。フリマ出店料とハンドメイド出店料で、出店数が少ない場合、自己資金が 10%を下回る可能性があるが、どのように考えているか。

[説明者] 足りなかった場合は、法人から出したり、団体からいただく形で検討している。

⑥ 「「地域ワンダー」 in 向山実行委員会」による事業計画説明及び質疑応答

事業名 : 2024 「地域ワンダー」 in 向山

事業概要 : 向山地区はどのエリアも丘陵地帯となっている。昭和 30 年代に造成がはじまり、ほとんどの地域が土砂災害地域に指定されている。少しでも地域住民の繋がりを広げていきたいとの思いで立ち上げたのが、地域ワンダー in 向山である。連合町内会を中心に各種団体が集まり、課題解決のきっかけとして課題を共有する場が必要だと考え作られた。具体的な形として、定期的に毎年開催することで、地域の繋がりを作れる。様々な団体が枠を超えて共有できる場所が、地域ワンダー in 向山になっている。地区全員、子供から高齢者まで、障がいの有無や国籍に関係なく、分け隔ての無い地域共生社会をつくる試み。事務所が向山にある NPO 法人すんぷちょというグループがあるが、障害者や不登校の方などが中心のグループを取り上げていく考えである。地域共生社会を地域ワンダー in 向山でつくろうと考えている。

質疑応答：[委員] 以前の地域ワンダーin 向山に 350 名参加されたとあるが、どのような方が参加していたのか、年齢層など教えて欲しい。

[説明者] 学校を巻き込んで実施した。学校の吹奏楽や、絵画を展示してもらった。生徒の父兄が会場に足を運んでもらった。サロンの高齢者、福祉老人施設、など幅広く参加頂いた。小学生から高齢者まで、集まっていた。

[委員] 防災訓練の内容は炊き出しだけになるのか

[説明者] 今回は炊き出しだけとなる。防災訓練自体は別に行う機会がある。炊き出しを大人数で行う機会はない。その参加で地域ワンダーin 向山の理解を深めようとしている。

[委員] 展示用パネルとはどのような内容で考えているのか

[説明者] 展示用パネルは小中学校や地域住民の絵画や習字などの展示用となる。

[委員] チラシポスターの配布先、部数を教えて欲しい。

[説明者] チラシは 4,000 枚～5,000 枚。町内会に市政だよりと一緒に配布してもらうことを 2 回程度行う。その他にプログラムなどを 400～500 枚作成している。

[委員] スローガンにある「みんなが繋がり合えるまち向山」とあるが、実際に活動を行い繋がり合った後、災害関係をどのようにしていく計画か。

[説明者] ハザードマップを利用し、地域安全を保つ青パトがあることを周知し、地域全体を回って土砂災害地区を知ってもらうことをお伝えしていく。

[委員] 障がいのある方、高齢者が多いと思うので、活動を実施し繋がり合った後の防災に向けての部分をもっとイメージして欲しい。

[委員] 外国籍の方の対応としてどのようなことを検討しているか。

[説明者] 外国籍の方に色々な料理を作ってもらうなどのコミュニケーションを取ることを行っている。コミュニケーションの取れるような地域をつくろうとしている。

[佐藤委員] 外国籍の方の団体などと連携しているか。

[説明者] 具体的な連携先は無い。社会福祉協議会の向山地区の会長をしている関係で、社協から様々な情報が上がってくるので、そこに対して踏み込んでいくような状況。

4 第2回議事 【非公開】

(1) 評価

- ①各団体の採点結果
- ②申込事業に係る評価・協議
- ③助成金額についての協議

(8) その他

①全体の結果

- ・ 6 団体の内 4 団体が採択、2 団体が不採択。
- ・ 予算に対して採択団体の合計額が少ないため、二次募集を実施する。

②二次募集について

- ・ 二次募集のスケジュールは 4 月上旬に募集を開始し、6 月に事業計画説明会、7 月から事業開始で調整する。
- ・ 二次募集の事業計画説明会日程は 6 月 1 日実施で決定)

5 閉会